

御所の柿のブランド化と柿葉生産拡大

要約

御所市は古くからの柿の産地であり、小規模ではあるが高品質な柿の生産を行っている。しかし、近年高齢化による生産者の減少と柿園の耕作放棄により産地の衰退が懸念されている。

そこで、地域特産物である「御所柿」の生産・販売推進による産地のブランド化及び柿果実生産よりも軽作業で柿園を管理できる柿葉の生産推進を行うことで、柿生産者の経営改善を目指している。H27年度は、JAならけん葛城支店柿部会の生産者に対して、「御所柿」の苗木育成支援、市場調査、及び「柿葉」の生産啓発、経営調査を実施した。

現状(背景)と課題

- ・「御所柿」 生産量が不安定
有利販売ができていない
- ・「柿葉」 栽培面積：25a
耕作放棄されている柿園が多い

目標

- ・「御所柿」
生産量の確保
有利販売活動への合意形成
- ・「柿葉」
柿葉生産の拡大：30a

活動内容

- ・「御所柿」… 接ぎ木講習会を実施し、御所柿の苗木を育成
着果安定を目的としたはく皮処理技術について調査
流通・販売に関する市場調査を実施
- ・「柿葉」… 新規柿葉生産者への栽培指導
柿果実生産者への柿葉生産啓発
柿葉生産者への経営実態調査の実施と経営評価の作成

成果

- ・「御所柿」… 生産量の確保に向けた苗木育成 15本
市場調査結果を踏まえた生産者への啓発活動により、有利販売活動に取り組むことへの合意を形成
- ・「柿葉」… 柿果実生産者に対して、県が作成した柿葉栽培暦を配布して啓発を行ったことで生産者、栽培面積が増加
柿葉生産者4名(H26年：3名)、柿葉生産面積35a(H26年：25a)
柿葉出荷枚数14万4千枚(H26年：8万6千枚)
生産者への経営実態調査から、柿葉栽培における経営評価を作成



御所柿



接ぎ木講習会の様子



柿葉収穫の様子

中部農林振興事務所農林普及課
担当：農産物ブランド推進係 西井

普及活動のポイント

- ・「御所柿」について、市場調査を実施し、実需者のニーズを踏まえた啓発活動を行うことで、有利販売活動への合意形成を図ることができた。
- ・「柿葉」生産に関して栽培暦を提示し、啓発を行ったことで興味をもつ生産者が増え、栽培面積が拡大した。

対象の変化

- ・「御所柿」の生産強化や、有利販売に向けた活動の必要性への意識付けができた。
- ・「柿葉」生産に関する情報提供を定期的に行ったことで、柿葉生産に興味をもつ生産者が増えてきている。

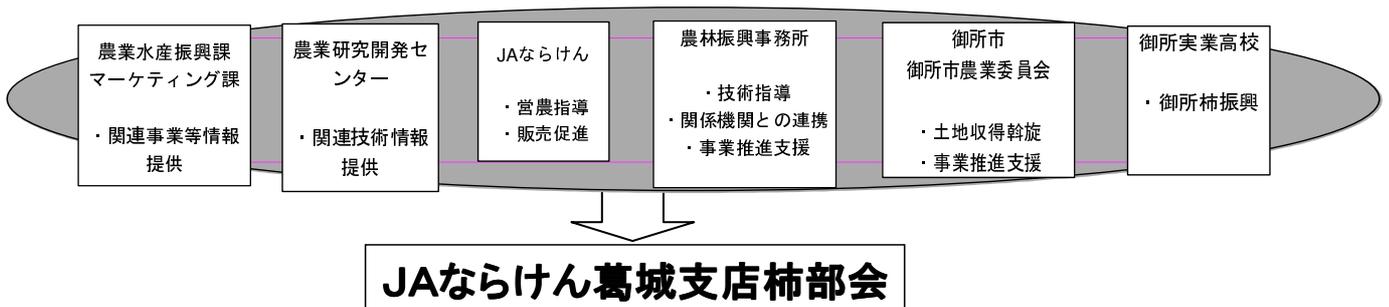
対象者からのコメント

- ・「御所柿」は奈良県御所市の地域特産物であるため、この柿のブランド化を通して産地振興につなげていきたい。
- ・「柿葉」の生産は柿果実の生産よりも軽作業で、柿果実と収穫時期が重ならないため、高齢化が進む当産地では柿園を省力的に管理できる優良品目であることから導入を進めていきたい。

これからの活動ビジョン

- ・「御所柿」の生産量確保（接ぎ木による苗木生産）
- ・「御所柿」の有利販売のための方策決定（出荷事前情報提供等）
- ・「柿葉」生産に関する経営評価の結果をもとに、労力分散や柿園の荒廃防止を図ることができる品目として、導入を推進

活動体制



用語解説

○御所柿（ごしょがき）

甘柿の原種とされる品種で、御所市が発祥の地とされている柿。
甘みが強く、ねっとりとした食感が特徴。
着果が不安定で収穫量も少ないため、ほとんど経済栽培されなくなっていた。

○柿葉

奈良県の特産物である「柿の葉寿司」用の柿葉で、近年、県産需要が高まっている。柿葉の栽培は、柿果実の栽培より軽作業であるため、高齢者向けの新規品目として県内での栽培が広がっている。